

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょ

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームマザーレイク
（ユニット名）	2階
所在地 （県・市町村名）	大津市黒津1丁目6-18
記入者名 （管理者）	片岡 幸子
記入日	平成 20 年 8 月 1 日

(様式第1号)

自己評価票

(個別表)

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
I-1. 理念と共有					
1	1	☒ ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ケア職員会議のうえ、わかりやすいマザーレイク理念を作成している		
2	2	☒ ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲げて、意識つけしている		
3		☒ ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時等、ホームの理念を説明し、賛同を得て、入居していただいている。普通の暮らしを営んでいるということを行事などを通し取り組んでいる		
理念と共有 3項目中 3 項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		☒ ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム主催の行事・講習会への参加を呼び掛けている		
5	3	☒ ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事の寄付など、できる範囲で参加している	○	自治会の加入
6		☒ ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム主催講習会への参加を呼び掛けている(救急法など)		
地域とのつきあい 3項目中 3 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	4	☒ ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月10日にサービスについて話し合いや、改善事項など行う時間を設けサービスの向上に努めている		
8	5	☒ ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・家族・地域包括・民生員・近隣の方の参加を募り、会議の席で意見交換を行っている。	○	日々の業務に追われ、2か月に1度のペースで行えていないため、定期的に開催できるよう体制を整える
9	6	☒ ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大津市役所介護課に訪問し、助言を受けながら運営を行っている		
10		☒ ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な方には、制度利用について助言できるような体制がある。また、現在利用されている方もいる		
11		☒ ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員全体の勉強会で取り上げ、周知徹底を図る		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 5 項目					
		I-4. 理念を実践するための体制			
12		☒ ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や訪問し納得していただいたからの契約を行っている		
13		☒ ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員が困り事がないか他者の視線に触れない場所で聞く機会を設けている		
14	7	☒ ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書とともに、一か月の様子や、便りを送り報告する機会を積極的に持っている		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	☒ ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	便りに、第三者の機関や、苦情窓口の紹介を定期的に記載また、玄関に表記している		
16		☒ ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見しやすい環境にあるが、決定した事項を職員に下ろされることがある。	○	案の段階で職員の意見を募ることに努める
17		☒ ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院や、緊急時など勤務調整に努めている		
18	9	☒ ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動などがあれば、こまめに顔を出すよう努めている		
理念を実践するための体制 7項目中 7 項目					
		Iー5. 人材の育成と支援			
19	10	☒ ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフによって、研修受講の差がある		
20	11	☒ ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会や、合同研修会を開催している		
21		☒ ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	テーブル、ポット、ソファ、個人ロッカーを設置。冷暖房完備		
22		☒ ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ここの能力を生かして、勤務の配置を決定したり委員会を開設し、各自で主体的に活動できるよう努めている。研修費の支給		
人材の育成と支援 4項目中 4 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
Ⅱ-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		☒ ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にスタッフが訪問や、見学を勧め、話す機会を作っている。		
24		☒ ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にスタッフが訪問や、見学を勧め、話す機会を作ってニーズを把握している		
25		☒ ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にスタッフが訪問や、見学を勧め、話す機会を作ってニーズを把握し応えられるように努めている		
26	12	☒ ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にスタッフが訪問や、見学を勧め、話す機会を作っている。また、共用型のデイサービスを利用し、徐々に馴染めるように配慮している		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4 項目					
Ⅱ-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	☒ ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜 怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様から生活の知恵や、料理など教えていただくなど相互に支えあう関係を築く		
28		☒ ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いや不安を受け止め協力しながらホームでの生活を入居者が維持できるように努めている。		
29		☒ ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族間の関係が維持また、改善も含め関係が途絶えないように努めている。情報提供		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		☒ ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れな いよう、支援に努めている	友人や、近隣の方の訪問を積極的に受け入れている。美 容院・病院など行きつけであった所を継続できるようにし ている		
31		☒ ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関 わり合い、支え合えるように努めている	個々の状況に応じ、一人の時間も大切にしながら、孤立 しないよう援助している		
32		☒ ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者 や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、介護保険外のサービスや、相談窓口として利 用していただいている		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
Ⅲ-1. 一人ひとりの把握					
33	14	☒ ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を把握した上で、本人にとって良い方向性に進むように臨時や定期カンファレンスで検討している		
34		☐ ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居後も情報を上乗せしながら共有できるように個人ファイルに記録しているが不十分な点があったり共有できていたことがある	○	スタッフは努めて、もっと取り組む必要がある
35		☒ ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月のカンファレンスで評価する機会を設けている		
一人ひとりの把握 3項目中 2項目					
Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	☐ ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のニーズを把握し、関係者間で話し合い意見交換・意識統一を図った上で計画を作成している	○	家族にもっと参加してもらう場を設ける
37	16	☒ ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の希望や状況を把握した上で、本人にとって良い方向性に進むように臨時や定期カンファレンスで検討し適宜援助の変更をしている		
38		☒ ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに記録し、介護計画の評価や作成に役立っている		
介護計画の作成と見直し 3項目中 2項目					
Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	☒ ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院中の支援など、介護保険外でのサービスを取り入れている		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		☒ ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な避難訓練や救急法の勉強会など支援している		
41		☒ ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリなど通所できるよう支援している		
42		☒ ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	個人的な支援を地域包括センターに依頼したケースはないが、必要があれば相談できるような関係作りに努めている		
43	18	☒ ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を取り入れ、継続性のある医療が受けれるように努めている		
44		☒ ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要な時には受診し、適宜助言や治療を受けられるように支援している		
45		☒ ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診時や必要時に相談できる医療体制は整えている。		
46		☒ ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	急性期が過ぎた時点で早期退院や退院にむけ受け入れ態勢を整えている		
47	19	☒ ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期にかかる時や、事前に想定される場合は、医療機関を含めホームでの取組方針を職員間でも検討し支援している		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		☒ ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期にかかる時や、事前に想定される場合は、医療機関を含めホームでの取組方針を職員間でも検討し支援している。実際に終末ケアを実施した		
49		☒ ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院のケースには顔なじみの職員が定期的に面会し、入院先の職員と情報交換を行っている		
地域資源との協働 10項目中 10 項目					

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
		IV-1. その人らしい暮らしの支援			
		IV-1. (1) 一人ひとりの尊重			
50	20	☒ ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	個人の情報が他者に漏れないよう、また、スタッフ間でも、不適切と思われる言葉や表現の場合は話し合う。		
51		☒ ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々にあったレベルで説明や、支援を行っている		
52	21	☒ ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのように努めるように努力している	○	しかし、体制的に困難な希望に対しては形を変えたり、後日に待っていただいたりしているため、努力項目である
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3 項目					
		IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53		☒ ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院へ通ったり、訪問してもらったりしている		
54	22	☒ ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の中ですべて食べれないものばかりとならないよう、副食を3品以上作るようにしている		
55		☒ ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	長年習慣にされていた、飲酒や喫煙は、健康を維持した上で継続していただいている		
56		☒ ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録をもとに、パターンの把握、介助を行っている		
57	23	☒ ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される方は少ないが、本人が入りたいと自己決定していただけるように支援している		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		☒ ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠時は、昼寝を適宜取り入れたり、体調不良時なども静養できるよう支援している。就寝時間も個々に違う		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 6 項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	☒ ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の手伝いや、モップかけ等していただいている		
60		☒ ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理していただいている方もいる。個人の希望や能力に応じ、小遣いとして預かっている		
61	25	☒ ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩に行っていたるようにしていただいている		
62		☐ ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見やドライブ、外食など外出の機会を設けている	○	ADLの低下による身体的援助が重点しつつあるが、外出による刺激をもっと味わってもらいたい
63		☒ ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自室に電話や、携帯などを持ち込んでおられる方がいて、自由にご家族間で連絡されているホームの電話も。自由に開放し、必要ならば支援している		
64		☒ ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の来訪が多く、来訪時には快くお迎えしている。積極的にコミュニケーションを図るようにしている		
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 5 項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		☒ ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設立しており定期的に研修を行っている。全職員が正しい理解ができるように		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	☒ ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出したい素振りや訴えがある時は、玄関を開放しているが防犯上、また、安全のため、玄関はかぎをかけている	○	玄関は電気錠であるが、近日は必ず予定である
67		☒ ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングにおられることが多いが、動きのある方でも、所在は常に明らかにしている。夜間は1から2時間毎に巡回しチェックしている		
68		☒ ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日常生活用品は、リビングにあふれている。包丁はナンバーを記入し紛失がないか容易にわかるように工夫している。	○	ハサミやペンなどまた、口に入ってしまうような紛らわしいものは片づけるように物品管理する
69		☒ ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救命救急法や避難訓練を定期的に開催。また、AEDを設置し、救命に取り組んでいる。状態に応じたリスクマネジメントをし、周知するよう情報を提供している		
70		☒ ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急法や避難訓練を定期的に開催。また、AEDを設置し、救命に取り組んでいる		
71	27	☒ ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	救命救急法や避難訓練を定期的に開催。また、AEDを設置し、救命に取り組んでいる。また、近隣の方の参加を募っている	○	災害時の応援態勢、協定が結べるよう働きかける
72		☒ ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクのある場合は事前に情報を伝えている		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 8 項目					
		IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73		☒ ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	記録、口頭での連絡に努めている		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		☒ ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに服薬の情報を入れておりいつでもチェックできるようになっている		
75		☒ ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、カスピ海ヨーグルト(自家製)摂取で予防している		
76		☐ ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	必要な方には毎食後のうがいや、口腔ケアを行っている。	○	特定の方だけでなく、全員を対象として徹底出来るようにする
77	28	☒ ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった分量や味付けを工夫している		
78		☒ ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手すりなどハイター除菌、手洗いの徹底		
79		☒ ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限内の食材を正しい保管方法で保管している。食器は洗剤洗浄後、乾燥機をかけている。	○	保存期間や、買出しの都合上冷凍の食材も多くあるが、できる限り旬のものを取り入れるよう努力していく
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 6項目					
		IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
		IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり			
80		☒ ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉が閉まっているため、外部者は入りにくように感じるが、一人で入居者が出られた際に、道路が危険である。	○	防犯や入居者の安全上、玄関は解放できるが、門扉は困難。今後も検討していく
81	29	☒ ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾っている。食材など	○	どんな方にも共通して使いやすいトイレ・浴室

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでい きたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		☒ ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと和室があり、和室では自由に横になれるようになっている		
83	30	☒ ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビ等、使い馴染んでいるものを持ち込んでもらっている		
84		☒ ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機、エアコン、リビングには、高機能の換気扇がある。天気の良い日は、窓を開放している		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5 項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		☒ ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下階へ移動の際はエレベーターを利用できるようになっている。フロアーに段差がなく手すりが設置。歩行の邪魔にならないよう整備している		
86		☒ ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できることをしていただいている。混乱があればその都度わかりやすく説明している		
87		☒ ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外に畑や、ベランダに鉢植えなど設置	○	スタッフが管理していることがほとんどなので、もっと利用者にもかかわっていただく
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2/3くらいが ☐ ③職員の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2/3くらいが ☐ ③家族等の1/3くらいが ☐ ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ADLの低下が著しく低下されている方でも、安楽にホームでの生活が営めるように、セルフケア不足を補う。清潔空間を心掛け、感染など蔓延を予防、健康生活が維持できるように。個々のレベルに応じた、食事形態で、誤嚥予防や、十分な栄養が維持できるように、また、楽しくおいしく食べていただけるよう、食事に重点を置いている。車いす生活でも快適に過ごせるよう、環境を整備し、また、認知度や疾患に対しても、適宜勉強会を設け、スタッフの知識向上に努めている。

評価結果整理表

個 別 表		□のチェック項目数
I 理念に基づく運営		
－1.	☒ 理念と共有	3 項目/3項目
－2.	☒ 地域との支え合い	3 項目/3項目
－3.	☒ 理念を実践するための制度の理解と活用	5 項目/5項目
－4.	☒ 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5.	☒ 人材の育成と支援	4 項目/4項目
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
－1.	☒ 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	☒ 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
－1.	☐ 一人ひとりの把握	2 項目/3項目
－2.	☐ 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2 項目/3項目
－3.	☒ 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	☒ 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		
IV－1. その人らしい暮らしの支援		
－1. (1)	☒ 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2)	☒ その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3)	☒ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	5 項目/6項目
－1. (4)	☒ 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5)	☐ その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	6 項目/7項目
IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		
－2. (1)	☒ 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2)	☒ 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

総 合 評 価

I 理念に基づく運営（ ☐ 5 項目／5項目）について

日々の朝礼や、カンファレンス、ミーティングにて職員間で理念に基づいて、サービスの質向上に向け勉強会や指導、点検が行われ、職員間で周知徹底がなされている。外部の研修には、ホーム内の勤務が優先され、なかなか受講できないため、必須となる研修の受講に限られ、受講するスタッフが限定となり、スタッフ間で差が出ている。受講したスタッフは、受講後、職員間で学びを共有する機会を設けている

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援（ ☒ 2 項目／2項目）について

新規入居に当たっては、入居金を含めホームの理念・方針を説明の上、納得していただいた上で入居契約に至っている。入居契約までに見学や訪問し、面接を兼ねて顔見知りになるように努めている。また、共用型デイサービスを開設し、入居までにデイサービスを利用することで、利用者間も顔馴染みとなれたり、火急な環境の変化による負担を軽減できる

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント（ ☐ 2 項目／4項）について

できる限りターミナルまで過ごしていただけるよう、医療機関と連携しながら行っているが、ホーム専属の看護スタッフは所属していない。医療行為ができる人材がいれば、もっと利用できる方や、入院せずにホームで過ごすことができる方がいる。できる限り馴染みの環境でターミナルを安楽に過ごせるように、また、ご家族の安心にもつなげることができると考える

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援（ ☐ 6項目／7項目）について

今までの生活してきた馴染みや、習慣をホームでの生活に取り入れ、個々に持つこだわりを大切にしている。ADLの低下に伴って、外出がなかなかしづらくなる中でホーム内の生活に季節感をとりにいられるよう、季節に応じた花々を飾ったり、野菜を栽培して楽しんでいる。入居者の安全のために、玄関の鍵と門扉があるため、外出時はスタッフが援助を行っており、一人での外出は困難である。希望や素振りが感じられたら、可能な限り玄関を開放している。今後、玄関の電気錠は外し、少しでも玄関を開放していきたいと検討している。また、多目的広場を整備し、有効に地域の方々にもご利用していただけるよう努めたい。

V サービスの成果に関する項目について

利用者の思いや困りごとなどニードは職員が理解し、一人一人に応じて援助を行えていると考えているが、身体的援助が必要になってきて、外出する機会が減少しつつあり、中にはもっと外出したい希望の方がいらっしやると思う。インフォーマルなサービスを利用するなどし、ホームでの生活がすべての利用者にとり安楽であるよう、日々サービスの向上に努めていきたいと思う

★サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

評 価 年 月 日： 20年 8月 1日

前回評価年月日： 19年 8 月 日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月 ～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
45	1	医療体制	H20, 8～	①医師への打診 ②家族への説明 ③市への体制変更届け		
80	4	玄関の施錠・門扉	H20, 8～9	①電気錠の解錠 ②門扉開放時間検討・実施		
8	3	運営会議の開催	H20, 8～	①2か月に1回のペース で開催		
62	5	外出	H20、10	①家族参加型の外出 企画		
34	2	情報の共有	H20、8～	①共通シートの記録		